

はじめに

3級の試験内容

3級リスニング問題は試験の最初に出題されるにもかかわらず、1問5点と配点の比率が大きいため、試験の合否に大きく影響します。このテキストの分析と練習を通して、合格ラインを越えるようレベルアップしていきましょう。

1 3級リスニング問題の分類

3級リスニング問題は、大問1の会話表現問題と大問2の長文理解問題で、それぞれ10問出題されます。

また大問1の会話表現問題では、①AB 式会話問題（一問一答とも言う）と②ABA 式会話問題（二人三話とも言う）がそれぞれ5問ずつ、1問5点で出題され、合計50点の配点となります。

大問2の長文理解問題には、③長文会話問題と④長文論述問題の2種類があり、それぞれ5問ずつ計10問出題されます。こちらも1問5点ずつ、合計で50点の配点となります。

このように、リスニングのテストは大問1と大問2で合計100点となり、合格基準点は65点です。

2 本テキストの使い方

本テキストは、中検3級の過去問第100～104回にわたって、そのうちの典型的な試験問題をまず例として取り上げています。問題演習と、出題傾向の分析と対策を含めた解説がメインの内容で構成されています。

章立ては上記の分類の通り、大問1の①AB 式会話問題は第1章、②ABA 式会話問題は第2章、大問2の③長文会話問題と④長文論述問題はそれぞれ第3章と第4章になります。

また、それぞれの章は大きく過去問の演習・解説と応用問題の演習の2つの内容で構成されています。ぜひ、中検3級テストに臨む前に、ご活用ください。

第1章

A B 式会話問題

重要度：★★★★★

難易度：★★★

こちらは中検3級のリスニング問題の中で、最初の大問1で出題される(1)から(5)の問題です。

ABの会話形式で、質問文Aの次にBの話の内容が選択肢①から④まで読み上げられ、正しい解答を選ぶ形になります。

実際に試験時には、

「これから読む中国語の問いを聞いてください。次に、4つの答えを読みますので、最も適当なものを1つ選び、その番号を解答欄にマークしてください。問い・答えは1題ごとに、通して2回読みます。」

というリード文が先に流れます。

A→BのようなAB式会話問題では、Aの発話の多くは疑問詞や非疑問詞による疑問文です。そのため、この種類の問題は通常「一问一答」とも言います。そして、非疑問詞疑問文の多くは“吗”、“吧”、“啊”を用いるもの、述語の肯定否定を繰り返すもの（反復疑問文という）です。

しかし、大問1の(1)から(5)の問題の中で、時にはAは疑問文ではなく、通常の平叙文であり、Bはそのフォローの平叙文、または質問文という逆の形式もまれに出題されますので、ここではあえてAB式会話問題という言い方を用います。

とはいえ、AB式会話問題を正しく解くためには、Aの話、主に疑問詞を用いた疑問文がメインになっていますので、本章では、これまでの過去問で特によく出題されている疑問詞にフォーカスして過去問の解説をしていきたいと思います。

応用問題の演習では、上記以外に考えられる形式を補うために、いくつかオリジナル問題を設定しています。